



Sagami Women's University

後援会会報

SEP. 2018 No.47



学園だより	5
学長挨拶	
各学科から	
新任教員紹介	
近況報告	
秋学期学年暦	
就職状況報告	
入学試験日程	
後援会会則	13

目次

後援会からのお知らせ	1
後援会会長に就任して	後援会会長 本田 修路
2018年度総会報告	
2018年度事業報告	
会員通信	4
感謝	渡邊 雅子
夢の実現へ向けて	佐藤 佳司
娘	匿名希望
食と娘	井口 敦子

相模女子大学・相模女子大学短期大学部の沿革

本学の歴史は、明治33年（1900年）に設立された日本女学校に始まる。その後、明治42年（1909年）に開設した帝国女子専門学校が、戦後の学制改革により、昭和24年（1949年）相模女子大学となり、昭和26年（1951年）には短期大学部を設置、そして平成20年（2008年）に大学院を新設し、一貫した女子教育の殿堂として今日に至っている。

学園歴概要

1900年	9月	(明33)	相模女子大学前身「日本女学校」開設。翌10月18日に開校。設立者：西澤之助 東京都本郷区龍岡町36番地（現：文京区湯島4丁目1番11号）				
1909年	4月	(明42)	「帝国女子専門学校」の設立が認可。				
1909年	9月	(明42)	「帝国女子専門学校」開校。高等予科、本科：家政専攻、研究科を設ける。日本女学校を日本高等女学校と改組し、附設。東京都小石川区大塚町70番地（現：文京区大塚）				
1920年	3月	(大9)	帝国女子専門学校の学則を抜本的に改正。本科、選科、特科、研究科の各科を設ける。本科は第1部：人文学科、国文学科、史学科、第2部：理化学科、第3部：家事科、第4部：主婦科に分ける。	2004年	3月	(平16)	短期大学部生活学科の廃止。
1920年	4月	(大9)	帝国女子専門学校に本科の第1部国文学科、第3部家事科、第4部主婦科を設置。	2005年	3月	(平17)	短期大学部国文科、英語英文科の廃止。
1933年	4月	(昭8)	帝国女子専門学校の第1部人文学科、史学科、第2部理化学科、第4部主婦科を廃止。予科を置く国文学科第2部、修業年限2年の家庭科の新設を含む学則改正が認可。	2008年	4月	(平20)	「相模女子大学大学院（栄養科学研究科 栄養科学専攻（修士課程））」開設。学芸学部「子ども教育学科」を開設。学芸学部人間社会学科、食物学科食物学専攻、食物学科管理栄養士専攻の学生募集停止。短期大学部メディア情報学科を「学芸学部メディア情報学科」に改組。学芸学部人間社会学科を改組し、「人間社会学部（社会マネジメント学科・人間心理学科）」を開設。学芸学部食物学科を改組し、「栄養科学部（健康栄養学科・管理栄養学科）」を開設。学芸学部英語英米文学科を「英語文化コミュニケーション学科」に名称変更。相模女子大学は学芸学部（日本語日本文学科、英語文化コミュニケーション学科、子ども教育学科、メディア情報学科の4学科）、人間社会学部（社会マネジメント学科、人間心理学科の2学科）、栄養科学部（健康栄養学科、管理栄養学科の2学科）の3学部8学科となる。短期大学部メディア情報学科の学生募集停止。短期大学部生活造形学科を「生活デザイン学科」に名称変更。相模女子大学短期大学部は生活デザイン学科、食物栄養学科の2学科となる。
1938年	4月	(昭13)	帝国女子専門学校の学則を改正し、国文学科と家事科に新たに専修科を開設。	2008年	8月	(平20)	アメリカ・ハワイパシフィック大学との協定終了。
1944年	4月	(昭19)	帝国女子専門学校の学則を改正し、国文学科を「国語科」、家事科を「育児科」と「保健科」、家庭科を「経済科」に名称変更。	2008年	10月	(平20)	オーストラリア・モナシュ大学と協定を結ぶ。
1945年	4月	(昭20)	13日夜半から14日明方にかけての米軍の空襲により、帝国女子専門学校、日本高等女学校、静修女子商業学校の全校舎と7つの学寮が焼失。	2009年	7月	(平21)	韓国・国民大学と協定を結ぶ。
1946年	4月	(昭21)	旧陸軍通信学校跡地への移転（神奈川県高座郡相模原町上鶴岡4097番地：相模原市の現在地）。	2010年	3月	(平22)	短期大学部メディア情報学科の廃止。
1948年	4月	(昭23)	帝国女子専門学校の学則を改正し、国語科を「国文科」、保健科を「生活科」に改め、「英文科」を新設。別科として修業年限1年の家庭科を新たに設置。	2010年	4月	(平22)	相模女子大学大学院に「栄養科学研究科 栄養科学専攻 博士後期課程」を開設。相模女子大学大学院 栄養科学研究科 栄養科学専攻 修士課程を大学院 栄養科学研究科 栄養科学専攻 修士前期課程に名称変更。
1949年	4月	(昭24)	相模女子大学学芸学部国文学科、食物学科、経済学科の3学科設置。	2011年	4月	(平23)	台湾・文藻外語学院と協定を結ぶ。
1951年	3月	(昭26)	帝国女子専門学校は、国文科、育児科、生活科、経済科、英文科、別科国文科、別科英文科、別科家庭科生の卒業式をもって最後の幕を閉じ、31日廃校。	2012年	3月	(平24)	学芸学部食物学科の廃止。
1951年	4月	(昭26)	相模女子大学短期大学部国文科、英文科、商科、家政科の4科を開設。	2013年	4月	(平25)	学芸学部「生活デザイン学科」を開設。相模女子大学は学芸学部（日本語日本文学科、英語文化コミュニケーション学科、子ども教育学科、メディア情報学科、生活デザイン学科の5学科）、人間社会学部（社会マネジメント学科、人間心理学科の2学科）、栄養科学部（健康栄養学科、管理栄養学科の2学科）の3学部9学科となる。短期大学部生活デザイン学科の学生募集停止。相模女子大学短期大学部は食物栄養学科の1学科となる。
1953年	3月	(昭28)	学芸学部経済学科の廃止。短期大学部英文科、商科の廃止。	2014年	4月	(平26)	韓国・ソウル女子大学と協定を結ぶ。
1958年	4月	(昭33)	学芸学部食物学科に医学進学コースを設置。	2014年	7月	(平26)	韓国・国民大学との協定を満期終了。
1961年	4月	(昭36)	短期大学部家政科に「家政コース」と「食物栄養コース」を設置。	2015年	3月	(平27)	学芸学部人間社会学科、短期大学部生活デザイン学科の廃止。
1964年	11月	(昭39)	校歌『相模女子大学の歌』（金田一京助作詞、高木東六作曲）を制定。	2015年	4月	(平27)	アメリカ・カリフォルニア州立大学チコ校と協定を結ぶ。
1966年	4月	(昭41)	短期大学部に「英文科」を開設。国文科、英文科、家政科の3学科となる。	2015年	9月	(平27)	フィリピン・セントラル大学と協定を結ぶ。
1967年	4月	(昭42)	学芸学部「英米文学科」を開設。国文学科、英米文学科、食物学科の3学科となる。				
1968年	4月	(昭43)	学芸学部食物学科を「食物学専攻」と「管理栄養士専攻」に分離。				
1970年	4月	(昭45)	短期大学部家政科を「家政専攻」と「食物栄養専攻」に分離。				
1978年	4月	(昭53)	短期大学部家政科家政専攻を「生活経営専攻」と「生活造形専攻」に分離。				
1991年	1月	(平3)	カナダ・マニトバ州立大学と協定を結ぶ。				
1999年	4月	(平11)	短期大学部英文科を「英語英文科」に、家政科を「生活学科」に名称変更。				
2000年	4月	(平12)	学芸学部英米文学科を「英語英米文学科」に名称変更。				
2001年	10月	(平13)	ハワイパシフィック大学と協定を結ぶ。				
2003年	4月	(平15)	学芸学部「人間社会学科」を開設。学芸学部国文学科を「日本語日本文学科」に名称変更。学芸学部は日本語日本文学科、英語英米文				

後援会からのお知らせ



後援会会長
本田 修路

会員の皆様には、常日頃から後援会運営に関しまして、暖かいご理解とご協力を賜り、大変感謝しております。

本年度は大学の今後十年間の歩みの要となる「夢をかなえるセンター」に於いて、総会を開催する事ができました。センター関連部署への支援も学生のために間接的に行なっております。在校生、地域の方また卒業後も此処を拠点として活動の範囲を広げられると思います。

二〇一八年問題で若者減少の中、国公立大学を含めた大学存立危機が叫ばれる中、我が校は日経グローバルの調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、二〇一七二〇一七年度連続で全国女子大学No.1を維持し、学生の注目を集めました。その結果、二〇一五・二〇一六年度は学生数が微減しましたが、二〇一七年度より、増加を示しています。この傾向を保持するため、大学と連携しながら、学生定員の維持及び学園生活満足度の向上に協力して参ります。

国語教育の目標を「論理的に文

章を書く人」、「正しく美しい日本語を書く人」を育てることに設定して、読書の推進等を行っていましたが、図書館利用率の向上の為に職員の方々は日々努力されていきます。保証人も登録すれば利用できますので、積極的に学生利用へ繋がられるようご協力ください。後援会として、図書館への支援も引き続き行います。併せて、日本伝統教育の一環として、「相模女子大学書初め展」等を通じて地域の方々との繋がりがもできていますが、こちらの応援も引き続き行います。

課外活動の援助に関しましては、まだまだ予算的に厳しいかと思いますが、今後積み上げて行けるように申し伝えておきます。給付奨学金は原資の確保のため、付与人数が減りましたが、本当に困っている学生が、経済的事由により、諦めることがないように将来的にも継続できる事を望んでいます。

災害等助成は現実には遭遇した時に困らないように中身の検討を行なっております。 「平成」最後の年度を新役員一同、学生ファーストで、皆様の貴重な意見を頂戴しながら、進めて参りたいと思っておりますので、引き続きご協力賜ります様よろしくお願い申し上げます。

二〇一八年度総会報告

二〇一八年六月九日（土）十一時から十二時一〇分まで、相模女子大学夢をかなえるセンター・ガーデンホールにおいて定期総会を開催しました。大学から学長はじめ顧問の先生方にご出席をいただき、一四〇名の会員が参加しました。風間学長からご挨拶をいただいた後、議事が進行されました。

- 一、二〇一七年度事業報告の件
 - 二、二〇一七年度収支決算報告及び監査報告の件
 - 三、二〇一八年度役員選出の件
 - 四、二〇一八年度事業計画（案）の件
 - 五、二〇一八年度収支予算（案）の件
 - 六、相模女子大学・相模女子大学短期大学部後援会会則の一部改正（案）の件
- 概要は以下のとおりです。
- なお、二〇一七年度収支決算報告及び監査報告・二〇一八年度収支予算書は二・三頁に掲載いたします。

二〇一八年度役員選出

会長	本田 修路
副会長	齋藤 小恵
副会長	深澤 信隆
常任理事(総務部担当)	山口 充世
常任理事(会計部担当)	宮本 浩子

二〇一八年度事業計画

- 常任理事(事業部担当)
- | | |
|----|--------|
| 理事 | 鍋澤 真樹 |
| 理事 | 廣田 道子 |
| 理事 | 松本 稔和 |
| 理事 | 奥山 小百合 |
| 理事 | 浅田 久恵 |
| 理事 | 藤田 恵 |
| 理事 | 山室 哲也 |
| 理事 | 吉野 正美 |
| 理事 | 齋藤 啓子 |
| 監事 | 鈴木 智子 |
| 監事 | 池ヶ谷 千秋 |
- 役員の任期は、二〇一八年度定期総会終了後から二〇一九年度定期総会終了時までです。
- 一、役員会・常任理事会を必要に応じて開催し、重要事項を審議する。
 - 二、定期総会を一回開催する。六月九日（土）、於相模女子大学。
 - 三、教育・就職個別面談を開催する。六月九日（土）、於相模女子大学。
 - 四、相生祭に参加する。十一月三日（土・祝）、於相模女子大学。
 - 五、就職に関する懇談会を開催する。十一月十七日（土）、於相模女子大学。
 - 六、その他

会議等

- 二、学生の福利厚生の実を図る。
 - 三、学生の課外活動の充実と活性化を図る。
 - 四、学生の課外活動における顕著な活動を顕彰する。
 - 五、相生祭等、学生の自主的活動を援助する。
 - 六、学生の就職活動を支援する。
 - 七、学生の地域連携活動を援助する。
 - 八、その他
- 会員、その他関係者に配付する。
- 一、会報（年二回 九月・三月）
 - 二、その他参考資料
- 経済的理由により修学困難な学生に対し、奨学金を支給する。
- 弔意**
- 学生、父母の死亡に対して弔慰金を支給する。
- 相生祭に参加します**
- 今年も後援会として相生祭に参加します。健康測定コーナーや食物栄養学科コラボ企画など様々な催しを検討しております。
- ◆日時 二〇一八年十一月三日（土・祝） 十時～十一時 十三時三〇分～十四時三〇分
- ◆会場 七号館ラウンジ
- ◆ご協力 食物栄養学科
- ◆内容 健康測定・栄養相談など

相模女子大学短期大学部 に対する援助

- 一、教育研究活動の充実を図る。

2017年度 収支決算書

2017年4月1日から
2018年3月31日まで

相模女子大学 後援会
相模女子大学短期大学部

収入決算額 37,844,324円
支出決算額 33,296,236円

4,548,088円(次年度へ繰越)

【収入の部】 (単位：円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	比較増減(△)(A-B)
1.会費	32,750,000	32,510,000	240,000
2.寄附金	0	0	0
3.雑収入	50	30	20
4.前年度繰越金	5,334,294	5,334,294	0
合計	38,084,344	37,844,324	240,020

※本年度会費 大学 2,992名×10,000円=29,920,000円
短期大学部 259名×10,000円=2,590,000円

【支出の部】 (単位：円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	比較増減(△)(A-B)
1.事務費	2,291,000	2,033,051	257,949
(1)印刷製本費	580,000	549,644	30,356
(2)消耗品費	30,000	13,375	16,625
(3)通信費	1,081,000	1,022,366	58,634
(4)弔慰費	300,000	232,400	67,600
(5)旅費交通費	150,000	143,660	6,340
(6)渉外費	60,000	11,200	48,800
(7)雑費	10,000	0	10,000
(8)業務費	80,000	60,406	19,594
2.事業費	21,735,640	19,292,628	2,443,012
(1)学生関係費	17,051,640	14,827,680	2,223,960
①課外活動助成費	2,800,000	2,290,963	509,037
②福利厚生助成費	7,450,000	7,338,931	111,069
③学生指導助成費	10,000	0	10,000
④就職対策助成費	6,791,640	5,197,786	1,593,854
(2)行事費	2,300,000	2,300,000	0
①大学祭等助成費	1,200,000	1,200,000	0
②卒業記念パーティ助成費	1,100,000	1,100,000	0
(3)文化費	2,384,000	2,164,948	219,052
①会報発行費	804,000	796,200	7,800
②講演会等経費	30,000	5,400	24,600
③教育懇談会経費	50,000	50,000	0
④就職懇談会経費	500,000	316,216	183,784
⑤図書購入助成費	1,000,000	997,132	2,868
3.会議費	610,000	324,859	285,141
(1)総会費	400,000	189,800	210,200
(2)役員会費	200,000	130,359	69,641
(3)部会費	10,000	4,700	5,300
4.給付奨学費	7,450,000	7,297,500	152,500
5.災害対策助成費	1,500,000	1,490,400	9,600
6.地域連携助成費	3,000,000	2,845,898	154,102
7.予備費	1,497,704	11,900	1,485,804
合計	38,084,344	33,296,236	4,788,108

監査報告書

私たちは、2017年度後援会収支決算書を監査の結果、その適正であることを認めます。

監事 鈴木 智子 ㊞ 監事 長森 佳代 ㊞

二、常任理事会

日時 二〇一八年四月二十八日(土)
十二時三〇分～十三時二十五分

議事

- (一)二〇一七年度事業報告の件
- (二)二〇一七年度収支決算及び監査報告の件
- (三)二〇一八年度事業計画(案)の件
- (四)二〇一八年度収支予算(案)の件
- (五)二〇一八年度役員改選の件
- (六)二〇一八年度定期総会の件
- (七)相模女子大学・相模女子大学短期大学部後援会会則の一部改正の件

三、理事会

日時 二〇一八年四月二十八日(土)
十三時三〇分～十四時三〇分

議事

- (一)二〇一七年度事業報告の件
- (二)二〇一七年度収支決算及び監査報告の件
- (三)二〇一八年度事業計画(案)の件
- (四)二〇一八年度収支予算(案)の件
- (五)二〇一八年度役員改選の件
- (六)二〇一八年度定期総会の件
- (七)相模女子大学・相模女子大学短期大学部後援会会則の一部改正の件

日時 二〇一八年六月九日(土)九時
三〇分～十時五分

議事

- (一)二〇一八年度役員選出の件
- (二)二〇一八年度定期総会議案の件
- (三)教育個別面談その他行事の件

二〇一八年度事業報告

二〇一八年度、既に実施した事業は次の通りです。

会議等

一、会計監査
日時 二〇一八年四月二十八日(土)
十時～十一時

クリスマスイベントを開催します

後援会のクリスマス企画として、
本学のクラブによる演奏会を予定して
おります。
日時 二〇一八年十二月中旬
十二時一〇分～十三時
会場 夢をかなえるセンター二階
カフェテリア101

「就職に関する懇談会」開催のご案内

日時 二〇一八年十一月十七日(土)
会場 相模女子大学
対象 大学・短期大学部在学生の保証人
内容 講演・就職活動体験報告・個別面談等
今年度も、外部より講師を招聘しての講演会を企画しております。他

教育・就職個別面談

二〇一八年六月九日(土)、定期総会に引き続き十三時から十六時三〇分まで、相模女子大学において開催しました。
夢をかなえるセンターガーデンホールでは、金森副学長より、大学・短期大学の現況について報告が行われました。また、夢をかなえ

相模女子大学 短期大学部 に対する援助

るセンター部長より、今年三月に誕生した夢をかなえるセンターについての報告と、学生二名によるプロジェクト活動報告が行われました。その後、十一号館で開催された教育個別面談では、主にクラス担任教員と授業や学生生活等についての個別に面談を行いました。三四名の教員が担当し、四二組の会員が参加しました。また、併行して就職支援

相模女子大学 短期大学部 に対する援助

課職員との就職個別面談や施設見学を実施しました。
参加会員から「学生からの活動報告が素晴らしい」「我が子からの話だけでは分からない大学の様子が聞けてよかった」「授業のことや、保育実習のことなどを個別に相談でき、安心した」などの感想をいただきました。

学生の課外活動の充実と活性化を図る

十三のクラブ・委員会に対し、活動に必要な用品の購入経費の一部を助成しました。

学生の就職活動を支援する

就職を取り巻く状況の変化、情勢の変革に対応できるように、各種の講座やイベントを開催するための経費を助成しました。

- ・SPI模擬試験
- ・ビジネス実務マナー検定
- ・就職関連図書を購入 等

学生の地域貢献活動を援助する

「地域連携助成費」として、本学が取り組んでいる地域連携活動に参加している学生や団体に対し、活動にかかる費用の一部を助成しました。
・茨城県龍ヶ崎市の活動
・神奈川県相模原市緑区の活動 等

刊行物

会報四六号を三月に発行し、会員に送付、関係者に配付しました。

甲意

会員のご不幸は大学四名でした。会則により弔慰を表わしました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ホームページをご利用ください!

会員の皆様と後援会をつなぐパイプの一つになればと思っております。よろしくお願いたします。
URL: <http://www.sagamii-wu.ac.jp/guideline/kouenkai/>

2018年度 収支予算書

2018年4月1日から
2019年3月31日まで

相模女子大学 後援会
相模女子大学短期大学部

収入予算額 37,228,118円
支出予算額 37,228,118円

【収入の部】 (単位：円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	比較増減(△)(A-B)
1.会費	32,680,000	32,750,000	△70,000
2.寄附金	0	0	0
3.雑収入	30	50	△20
4.前年度繰越金	4,548,088	5,334,294	△786,206
合計	37,228,118	38,084,344	△856,226

※本年度会費 大学・短大 3,268名×10,000円=32,680,000円

【支出の部】 (単位：円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	比較増減(△)(A-B)
1.事務費	2,291,000	2,291,000	0
(1)印刷製本費	560,000	580,000	△20,000
(2)消耗品費	30,000	30,000	0
(3)通信費	1,201,000	1,081,000	120,000
(4)弔慰費	250,000	300,000	△50,000
(5)旅費交通費	150,000	150,000	0
(6)渉外費	20,000	60,000	△40,000
(7)雑費	10,000	10,000	0
(8)業務費	70,000	80,000	△10,000
2.事業費	19,984,000	21,735,640	△1,751,640
(1)学生関係費	16,110,000	17,051,640	△941,640
①課外活動助成費	2,700,000	2,800,000	△100,000
②福利厚生助成費	7,100,000	7,450,000	△350,000
③学生指導助成費	10,000	10,000	0
④就職対策助成費	6,300,000	6,791,640	△491,640
(2)行事費	1,900,000	2,300,000	△400,000
①大学祭等助成費	800,000	1,200,000	△400,000
②卒業記念パーティ助成費	1,100,000	1,100,000	0
(3)文化費	1,974,000	2,384,000	△410,000
①会報発行費	804,000	804,000	0
②講演会等経費	20,000	30,000	△10,000
③教育懇談会経費	50,000	50,000	0
④就職懇談会経費	400,000	500,000	△100,000
⑤図書購入助成費	700,000	1,000,000	△300,000
3.会議費	510,000	610,000	△100,000
(1)総会費	300,000	400,000	△100,000
(2)役員会費	200,000	200,000	0
(3)部会費	10,000	10,000	0
4.給付奨学費	6,705,000	7,450,000	△745,000
5.災害対策助成費	1,500,000	1,500,000	0
6.地域連携助成費	2,500,000	3,000,000	△500,000
7.予備費	3,738,118	1,497,704	2,240,414
合計	37,228,118	38,084,344	△856,226

「感謝」

人間社会学部 社会マネジメント学科四年 父母 渡邊 雅子
五体満足で無事に生まれてくることを願っていた中で、娘が私のもとへ来てくれました。あれから二十一年がたち、その間私の欲は随分と大きくなってしまいました。自分の考えを押しつけ、時には衝突し、後から自己反省することも多々ありました。ただ存在していることに意味があり、私も一緒に成長させてもらっていることを忘れていました。

社会人になることで、私の子育ては卒業かなと思っています。四月、何か新しいことを始めるには良い季節です。
在学のみなさんも夢中になれるものをみつけて挑戦してみてください。そして、支えてくれる親・友達・先生など周りの人たちに對しての感謝の気持ちを忘れないでください。時には『ありがとう』とことばで表現する人々素敵な女性だと、私は思っています。

「夢の実現へ向けて」

学生部 子ども教育学科三年 普段、娘とはあまり大学の話をする機会もなく、また就職の事も気になっていたところに、後援会の定期総会の出席と教育相談や就職相談の案内があったので娘の学校生活の様子や大学の就職状況・バックアップ体制などを知る良い機会と思ひ、また、久しぶりに大学のキャンパスも見たくなり参加しました。
思い返せば娘が高校三年の時に大学進学についてどの大学にするか悩んでいた時に、私たち親は将来的に何か資格を身につけた方がよいのではと、アドバイスをしました。

断し、幾つかの候補の中から幼稚園教諭、保育士の資格の取得できる、この相模女子大学の子ども教育学科への進学を決めました。
そして娘も早三年目。傍からは華やかな女子大生生活を過ごしているかの様に見えますが、実際には実習の準備やゼミの課題研究等で結構大変みたいです。
ただ、大変な中にも色々な行事へ参加して、そこでの子ども達との触れ合いで楽しかった事や大変だった事、初めての経験等の話をしている時の娘の顔は生き生きとしていて、私もそんな娘の姿を見て『あー、夢に向かって頑張っているな』と、微笑ましく思います。
残された大学生活を充実したものにしようとして卒業、就職に向けてまだまだこれから大変な事が沢山あると思いますが、大学の諸先生方のお力添えを頂き、私達家族も娘の夢の実現のために、全力でバックアップしてあげたいと思います。

「食と娘」 栄養科学部 管理栄養学科二年 父母 井口 敦子
「明日、お母さんにお弁当を作ってあげる！」娘がそう私に言ったのは、娘が中学二年の時、私が勤務先の人事異動で意にかなわぬ部門への部署替えが決まり、翌日の出社を控えた夜のことです。
翌日、いつもは登校時刻ギリギリに起きる娘が、早朝五時に起床し、せつせとお弁当を作り始めました。そして私には、お昼に食べる時まで、お弁当を見ないでね、と念を押ししたのです。
そして、いよいよお待ちかねの昼食時間になりました。二段弁当箱の上段の蓋を開けると、海苔で顔を描いたゆで卵、肉団子、オクラのお浸し、かぼちゃのソテーが入っていました。可愛く、キャラ弁を作ってくれたのだとうれしく思いました。何気なく下段の蓋を開けると思いがけず、二色ご飯で、くまの顔が二つ並んでいて、びっくり。一緒に昼食をとっていた同僚の女性に思わずこのお弁当を見せていました。

新しい部門に移って不安な気持ちでいた私に、心を込めて、さらに見た目もかわいらしいお弁当を作ってくれた娘に今も感謝しています。
その後も娘は、私が仕事で帰宅が遅くなる時などに、冷蔵庫にある食材で、夕食の用意をしてくれることがあり、助かっています。
今は、管理栄養学科で学んでいます。ジャズ愛好会を立ち上げて、アルバイトで老人向け施設で調理の仕事をしてみたりと少しずつ幅を広げてきている様子です。
大学での学びを基礎として、娘の好きな「食」の分野で娘らしさを発揮してほしいと思っています。

学 園 だ よ り



学長 風間 誠史

「夢をかなえるセンター」

昨年度のこの会報に、「キャリア形成支援ポリシーについて」という一文を書かせていただきました。本学は授業だけではなく、学生生活での様々な体験の場を提供しサポートすることで、学生の「キャリア形成」を支援する、という内容でした。今年度はそれを目に見える形にしようと、「夢をかなえるセンター」を設置しました。六月の後援会総会でもお話をし、センター部長から詳しい説明がありました。総会に参加されたいない皆様にもぜひ知っていただきたいと思ひます。

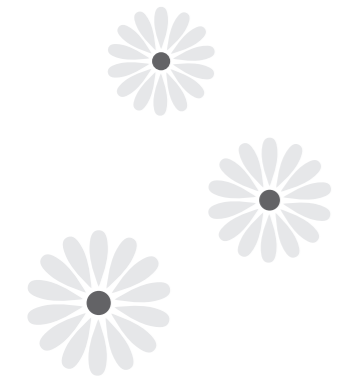
と一体となって「キャリア形成」を支援する態勢を整えました。二階の食堂と喫茶には電子黒板をはじめとした機器を導入し、食事のほかに様々な活動の説明会や打ち合わせを行えるようにしました。また四階のガーデンホールには可動性の高い机と椅子が入り、ここも様々な活動に使用可能です。三階にはもともと学生自治会があったり、今後自治会活動の活性化にもつなげたいと考えています。ともあれ、何かやってみたいと思ったらずは「夢をかなえるセンター」へ、ということ。ちなみに、卒業生や社会人の方との交流もこの「夢をかなえるセンター」の重要な役割と考えています。学生のみならず、本学にかかわるすべての人が「夢をかなえるセンター」に集い、様々な出会いを生むことができるよう、これから中身を充実させたいと思ひます。

ゼミ生のお話です。SNSで心ない言葉を浴びせられ心身ともに疲れていた時に、電車で目の前に一つ空いていた席に座ろうとして、中年の男性に突き飛ばされるように押され、座られてしまったようです。男性も疲れていたのでしょうか、彼女は思わず、呪詛の言葉が心に浮かびかけました。でも、やめました。次に、せめてもの腹いせにSNSで呟こうかと思いましたが、それもやめました。なんだか自分を傷つけるような気がしたのでそうです。
この話を聞いてうれしく思いました。彼女が自分の大切な、内言語を守ったからです。ともすれば、内と外で言葉を使い分けることが賢さであるかのように考えられがちですが、ある国会議員が秘書に對して聞くに堪えない言葉を投げつけてキャリアを失った出来事からも分かるように、本心に毒を含んだままの使い分けは、所詮は諸刃の剣に過ぎません。豊かな言語世界を持つているとは言えないのです。

昨年度は、就職率一〇〇%を達成し、日本航空、三井住友銀行、みずほ銀行、大和ハウス工業、といった業界大手企業や企業総合職、英語教諭などに進路が決まりました。新年度には募集定員に近い一八名の新入生、七名の編入学生を迎えました。また新しい語学研修先（ウエールズ、マルタ）を整備しました。昨年度は本学科が大きく躍進した年といえるでしょう。来年度から新カリキュラム、「世界とつながる三領域」を展開します。新カリキュラムにおいては、異文化間の橋渡しを担うことのできる「グローバル人材」育成を主眼とし、基盤となる英語教育から幅広い教養と社会で通用する専門性を身に付ける「国際教養」、「観光ビジネス」、「グローバル

自己SHOWの facebook https://www.facebook.com/sagami.wu Twitter (@sagami_wu) https://twitter.com/sagami_wu 学園キャラクター 「さがっば・ジョー」も、つぶやいています。 Twitter (@SagamiCharacter) https://twitter.com/SagamiCharacter

「夢をかなえるセンター」を設置した、といっても新しい建物が建ったわけではなく、食堂（カフェテリア）などのあるマーガレット・ホールを「センター」化したものです。一階の事務スペースに、地域協働活動をはじめ学生の多様な活動をサポートしてきた連携教育推進課を本館から移動し、就職支援課（旧キャリア支援課）



日文における学びは、畢竟、この内言語に根を持たせることにあ

「内」であり、「根」であるの目で見てとはいきませんが、これからも日文では内言語を豊かにする営みを続けてゆきたいと考えています。



学科長 九里 徳泰

英語文化コミュニケーション学科から

実践」の三領域を設け、学生個々の興味関心にあわせて履修できる体制を整えました。新カリキュラム開設に際し、以下五つのポイントを示しました。

- 一、全員留学（語学研修）を目指します。
- 二、四年間すべての学年でゼミナール・講座に所属。親身できめ細かい少人数教育。
- 三、ネイティブスピーカー教員による授業を設置。身につく英語の授業を。身につく英語の授業を。身につく英語の授業を。
- 四、充実したインターンシップ・キャリア教育を通し就職を見据えた実践教育。
- 五、エアライン・ライダル・銀行・教師・企業総合職など幅広い就職先。今後とも、英語文化コミュニケーション・学科学科をどうぞよろしくお願いたします。

子ども教育学科から



学科長
宇田川 久美子

子ども教育学科が開設されたのは十年前。一期生がインターンシップ、実習で初めて学外へと出ていくときには、まだ活動先を確保することが難しく、また学外へ

と出してからでも責任をもって活動しているかどうか、心配でなりません。そのような状況の中、地域の教育機関、福祉施設の方々が、「先輩ががんばってくれているから」と、温かく受け入れ、丁寧に指導をしてくださいました。

一九〇〇年創立という本学の長い歴史の過程で、卒業生のみならずが社会に貢献することで紡いできた人と人とのつながりの中で守られ、子ども教育学科一期生は無事社会へと巣立っていくことができただけです。そしてこの十年間で子ども教育学科の多くの卒業生が教育者、保育者として社会で活躍してくれるようになりました。教職センターのサポートにより、昨年度は卒業生のほぼ四割が公立の小学校・幼稚園・保育所などに就職していききました。来年度は特別支援教員養成課程を設置予定です。さらに他学科との連携によって中高の教員免許取得も検討しています。これからの十年間も、これまでに卒業生のみならずが紡いできたつながりを大切に社会のニーズに応えていきたいと思っています。

メディア情報学科から



学科長
田畑 雅英

メディア情報学科では、さまざま

まなメディアを、技術的な側面だけでなく、社会的・文化的側面からも多角的に学ぶことにより、主体的にメディアと関わっていく力を養成することをめざしています。

最近の話題としましては、本学科の学生が制作したCM「傘ザムライ」が、第十三回（二〇一七年度）ACジャパン広告学生賞奨励賞を受賞しました。本学科からは四度目の入賞となります。同じく本学科の学生による動画作品「銀河鉄道の夜」も、オープンキャンパスなどで上映して、ご好評をいただきました。その他、小田原のみかん飲料のパッケージ制作や、附属図書館の編集制作など、さまざまな社会連携・学内連携にも取り組んでいます。その多くにおいて、教員の助言はあるものの、本学科の学生たちが主体的に企画や作業を行い、年々完成度も上がっているのは頼もしい限りです。機会がございましたら、ぜひご覧いただければ幸いです。

これからも、「メディアを」学ぶ「おもしろさ」を。メディアを「作る」楽しさを。メディアを「伝える」醍醐味を。」というコンテンツのもとに、Webコンテンツや、動画、ゲームなどの制作を志向する学生にも、映画・アニメやマンガなどの研究を志向する学生にも、一人一人に手厚く懇切な指導を心がけていきますので、いっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

生活デザイン学科から



学科長
門屋 博

生活デザイン学科では、この春から建築を専門とする桑原茂先生とプロダクトデザインを専門とする柳邊匡史先生を迎えることとなりました。二人とも海外でも活躍されていた現役デザイナーで、学科に国際色も加わることになり、新たな気持ちで新学期が始まりました。

さて、私たちの学科では、社会連携・社会貢献活動が、デザインを学ぶ上で重要な教育活動であると考えています。そのため、デザイン提案の産学官連携プロジェクトや、幼稚園の子どもたちと共にファッションショーを伊勢丹相模原で行ったり、相模大野駅周辺商店会連合会や相模大野北商店会が主催するイベントにおけるワークショップの運営やオリジナル雑貨の販売などを行っています。どの活動も発表の場を設けていますので、機会がありましたら是非お越しください。また、本年度も、二月初めから二週間ほど、相模大野駅前のユニコムプラザにて学科の学びの集大成となる卒業制作展を行います。さらに、卒業制作展と同じ場所に、学生作品が常設展示されています。合わせて、こち

社会マネジメント学科から



学科長
井坂 聡

社会マネジメント学科の目標を分かりやすくお伝えすると、「学びの中で、自分と他者（社会）のよりよい関係を身につける力（マネジメント力）を養う」ということになるとはでしょうか。

以前、「社マネ（学科の通称）はビュッフェスタイルのカフェテリア。学生が自分の興味に応じて科目を自由に組み合わせることが出来る場です」と記したことがありますが。社マネには、様々な専門分野の教員がいます。地域連携、商品開発、広報、法律、経済、福祉、映像制作など、社会そのもののような多様性のある学科です。そして、アクティブラーニングという、学生自らが積極的に参加し、問題解決に取り組む実践的な授業を重視しています。その中で、実際に地域おこしへの参加、商品開発や番組制作などを通じて、年齢も環境も考え方も違う方々と交流すること、自然と幅広い考えやコミュニケーション能力を身につけます。就職活動において、社マネの学生のプレゼン能力が学内でも評価を受けているのが何よりの

証拠です。

そんな元気な学生をこれからも社会に送り出すよう。学科一同一所懸命取り組んでまいります。

人間心理学科から



学科長
後藤 和宏

人間心理学科は今年、教年ぶりに一〇〇名を超す新入生と日戸由刈先生をお迎えすることができました。心理学に関する国内の動向としては、二〇一七年九月十五日に公認心理師法が施行され、新しい国家資格「公認心理師」が誕生しました。本学科でも、昨年度から公認心理師養成に対応したカリキュラムの準備をしています。公認心理師と社会福祉士という二種類の国家資格に必要な科目を揃えることになった結果、カリキュラムの科目構成がそれらを中心としたものになるのは避けられません。しかし、資格偏重にならないように、従来どおり、哲学や人類学、民俗学など心理学以外の関連学問領域からなる広い視点に立った人間理解を理念にした教育を目指しています。

心理学に関する昨今の話題としては、再現可能性問題があります。過去の心理学の研究について追試を行ったところ、四〇％未満しか

結果を再現できるものがなかったことが報告され、心理学という学問の信頼性が危機的状態にあります。現在、さまざまな問題のある研究実践が見直されている最中ですが、この状況も批判的思考とは何かを考える教育の格好のテーマだと考えています。今後ともご支援のほどどうぞよろしくお願いたします。

健康栄養学科から



学科長
岡部 とし子

健康栄養学科は「人の健康に食分野から幅広くアプローチ」をテーマに、「食・栄養・健康」の科目や学際的な科目を設け、これらの科目を学ぶことにより、多角的に物事をとらえ様々な分野で活躍できる人材を育成することを目指しています。

専任教員のバックグラウンドが多彩であることに加え、パティシエやフードコーディネーターなど専門領域のプロフェッショナルな方々が非常勤講師として十五回の授業や実習を担当しています。さらに、学科横断プログラムの『食品開発と流通ビジネスプログラム』により、消費や流通について他学部の専門の先生方から学ぶことができるなど、様々な視点から

学生が主体的に学ぶことができるカリキュラムになっており、栄養士資格を始めとしてフードスペシャリスト、家庭科教諭、栄養教諭、食品衛生監視員・管理者などができます。キッズクッキングやノジマステラ神奈川相模原の栄養サポートなどの実践活動や様々な地域連携活動など授業以外の活動もありますので、学生さんたちには充実した四年間を送っていただきたいと考えています。

管理栄養学科から



学科長
樋川 直司

私は二年間栄養科学部長、その後六年間副学長を務めさせていた栄養学科長として学科へ戻ってまいりました。そのため、最近の学科の内情はあまり把握しておらず戸惑っております。そんな私が学科に貢献できることと言えば、六年間副学長として大学を全体から眺めてわかったことや、学外で見聞きしたこと、管理栄養学科を内からではなく外から見て気づいたことを学科に活かすことだと思っています。たとえば、大学で入念

に検討された事項の結果のみが学科に提案されることがありますが、

その過程を知っていると科会で説明しやすく、運用に対する学科員の理解も得やすくなります。また、このような大学のシステムだけではなく、大学が行っているアンケートやアセスメントの結果から管理栄養学科学生と他学科学生の長所や短所も相応にわかっております。他学科学生の良いところを本学科の学生も身につけられるようにできたらと考えています。管理栄養学科のカリキュラムや学びをこなすには努力が必要で厳しいため、学生が型にはまり、視野が狭くなる傾向があります。専門性を身につけることは良いことなのですが、広い視野で物事を考えることも忘れてはならない大切なことで、管理栄養士の世界を広げることもつながります。自ら学ぶ事柄を求めて決定し、その学びを自ら調整し、学びを楽しめる学生を育成できるのが理想なのですが、学ぶことがあまり好きではない学生も多く、現実にはなかなかそうはいきません。今はそのような学生を育てるための「はじめの一步」を模索しているところです。

相模女子大学の管理栄養学科で学生時代を過ごし、卒業したことを心から誇れる卒業生を輩出することを目標に、皆様のご助言を仰ぎながら、管理栄養学科教員一同努力していきたいと思っております。

食物栄養学科から



学科長
大迫 早苗

食物栄養学科では、二年間という限られた時間の中で、社会にでてすぐに活躍できる実践的な栄養士の育成を行っています。本年四月より「入口・導人教育」および「出口・キャリア教育」を強化したカリキュラムがスタートしました。導人教育（基礎科目）に「栄養士入門講座」、「食物基礎実験」等を配当したことにより専門科目との繋がりが明確となり、キャリア教育に「編入学対策講座」、「認定試験直前対策講座」、「栄養士実践実習」等を配当したことで将来の就職活動および進学を見据えた特色あるカリキュラムになっています。

就職内定率は二〇一六年度に引き続き二〇一七年度も一〇〇％という高い結果を残し、編入学については全体の十五％と年々増加傾向にあり、編入先も栄養系の学科だけでなく食の知識を活用できる他学科へと幅広い分野にわたっています。大学生生活では、授業の忙しい時間の合間をぬってパンの商品化や梅酒つくり等産学連携企画にも積極的に取り組んでいます。

さらに、今年助手の安谷屋倭子先生、榎本菜穂子先生の二名を

お迎えすることができました。
今後、食と栄養の専門家として活躍できる人材教育を行うべく精進してまいりますので、後援会の皆様方には今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



研究科長
嶋田 昌子

大学院栄養科学研究科から

大学院栄養科学研究科は本年度、博士前期課程に三名の新入生と榎本ヒカル先生を新たにお迎えいたしました。文部科学省の設置認可を受けてから早十年、教員一同気持ちも新たに教育・研究の指導に邁進していく所存でございます。さて、「博士」の学位の有無が給与や雇用率に歴然とした差を生む欧米とは全く異なる日本社会において、大学院でさらに学問の研鑽を積む現実的メリットは何でしょうか。第一に、日本の一流企業は国際競争に勝ち残る為に修士を学士よりも優先して雇用する傾向にあり、「修士」の学位は高等教育・研究機関に加え、こうした企業への就職を有利にします。第二に、就職十年以降、行き詰まりがちな女性のキャリアをさらにアップしていくには、自ら「発想」して問題を発見し、エビデンスに基づく論理的思考にて解決、結果を

社会に広く発信する方法を習得する為の大学院での研究経験が必要で、修士、博士といった学位取得に人生の先行投資をすることは将来の飛躍への鍵といえます。本研究科は、社会人がより学びやすい大学院として入試制度、長期履修制度を整備しております。後援会の皆様におかれましては、本年もどうぞ宜しくご支援のほどお願い申し上げます。

新任教員紹介

日本語日本文学科講師



下田 章平
主な担当科目
書道実習・書道科教育法 他

書道は実技だけでなく、文学・史学・哲学などの多角的な学びを通じてその深奥を理解できると考えています。このような学びを通じて書道の専門性を高め、将来書道の魅力を伝え、社会で活躍のできる有為な人材を育てたいと思います。

前職の女子高での経験を踏まえ、協調性や社会性を身につけた、自立した女性の育成にも取り組んでゆきたいと考えています。どうぞよろしく願います。

子ども教育学科准教授



角田 雅昭
主な担当科目
教育の原理

四月に着任した角田雅昭（かくたまさあき）です。

福祉施設で仕事をしていたとき、重複障がいの方と他愛のない話をしていると、彼が私の袖をつかみ、満面の笑みで「ぼくしあわせ」と文字盤で語りかけてくれました。このような小さな出来事の積み重ねが現場の醍醐味だと考えております。

相模原出身の私は、ビルが建つ前に相模大野駅にあった甘栗屋さんの香りを思い出しながら、毎日しあわせを感じて通勤しております。

生活デザイン学科教授



桑原 茂
主な担当科目
建築デザイン演習

この度、生活デザイン学科教授に着任いたしました桑原です。東京都大学工学部建築学科を卒業後に渡米、コロンビア大学大学院で修士を取得。NYの建築事務所では、教会・公園・TVスタジオ等の設計に参与し、帰国後は、住宅を中心に設計活動を行ってきました。様々な都市で暮らし、世界各地の建物を見歩いてきた経験を

活かしつつ、学生と共にこれからの建築について思索して参りたいと考えています。

生活デザイン学科講師



柳邊 匡史
主な担当科目
プロダクトデザイン演習II

こんにちは。四月より生活デザイン学科で、プロダクトデザイン工房を担当しております柳邊です。私は教育活動において、まだ常識や知識で凝り固まっていない純粹無垢な発想をのびのびと表現できる環境を提供し、創造・表現することの楽しさや難しさを存分に肌で感じてもらえる授業を心掛けていきたいと思っております。どうぞよろしく願っています。

社会マネジメント学科准教授



松崎 吉之助
主な担当科目
地域福祉Ⅰ・Ⅱ

四月から本学に着任いたしました松崎です。これまで宮城県の大で仕事をしてきましたが、以前は神奈川県内の医療機関や地域の相談機関でソーシャルワーカーとして活動していました。いつか地元で、地域に貢献できるソーシャルワーカーを育てたいと考えていたことが、この度その機会をいただいたことに心から感謝しております。どうぞよろしく願っています。

近況報告

後援会事務局より

大学事務部 学生支援課長
高柳 誠



学生支援課が後援会事務局となった二〇一六年度から、早いもので二年半が経過しました。定期総会や就職に関する懇談会で会員の皆様にお会いできる機会が増え、回を重ねるごとに親御さんがどのように考えられてご息女の入学を決められたのか、考えさせられることが多くなりました。

また、本田会長をはじめ、後援会役員の方々には、日ごろから学生支援について様々な相談をさせていただきながら、後援会事務局を運営しているところです。相模女子大学は二〇二〇年に創立一二〇周年を迎えますが、本田会長は、後援会も大学と共に盛り上がり、いきなると仰ってください、後援会ができる支援や活動等、自ら色々と提案してくださいませ。

た、他の役員の方々も会長と共に、後援会として学生達が十分に活動できるような内容が分かるのか、何か困っていることがないかなどいつも気遣ってください、大変ありがたいと感じております。

二〇一七年度の就職に関する懇談会では、メインとなる講演をどのような内容にするのか夏頃から役員の方々と検討を重ねてきました。その中で、「親として就職の手助けをできることは限られている」「自分たちの頃とは時代も違うであろう」「何をどこまでできるのか、すべきなのが分からない」「就職活動の進め方について基本的なことを知りたい」などの要望を受け、本学就職支援課にその旨相談いたしました。そこで挙げられた複数の候補の中には本学の卒業生であり、現在、本学就職支援課で学生の就職をサポートしているキャリアカウンセラーの名前も挙がっていました。就職指導法も学生の気質も大学によって色は違います。本学の就職指導の方針と学生の就職に関する動きを知り、大学と親御さんが協働した就職支援が可能となるよう、今回は本学キャリアカウンセラーに講師を依頼することになりました。実際の講演でも身近な問題として捉えられるよう、親として支援していただきたい事項を具体的に示され、要望に沿った内容だったと思っております。参加された会員の皆様アンケートでは「講師のお話は

とても参考になり、ありがたい気持ちでいっぱいです。親として、しっかり見守りたいと思います」などの感想を受け、高評価をいただきましたことに事務局としても安心いたしました。

役員の皆様は、会員の皆様の代表として、後援会はどう在るべきか、学生を支援することを第一に考え、大学を盛り上げようとしてくださっていることに感謝の言葉しかありません。大学としましては、学生一人ひとりと丁寧に向き合いたい、「相模女子大学に入って良かった」と思ってもらえるよう一杯サポートして参ります。会員の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学習の場としての図書館

大学事務部 教育研究支援課長
古越 奈史



後援会会員の皆様には日頃より附属図書館にご支援を賜り、感謝

ます。

人間心理学教授



日戸 由刈
主な担当科目
発達臨床心理学

みなさん、はじめまして。今年三月まで、横浜市総合リハビリテーションセンターという横浜市の障害児者を対象とした中核施設で、臨床と研究に取り組みで参りました。クラスの担任、教授会、オーブンキャンパス、出張授業など、すべてが初めての体験で、毎日どきどき、わくわくしております。どうぞよろしく願っています。

福祉士や管理栄養士の試験対策資料の他、各種資格・検定資料を揃えています。一息つきたい時、集中して勉強をしたい時、それぞれの用途に合わせて利用してもらえたらと思います。

図書館では、今後も学生の学習支援に努めて参りますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますと幸いです。

後援会会員の皆様が本学を訪れる機会は限られているかと存じますが、入学式・卒業式、後援会定期総会の時等、お越しいただいた際には図書館見学が可能ですので、是非ご覧いただければと思います。

キャリア形成につなげる地域連携活動

夢をかなえるセンター 部長
有田 雅一



本学は、社会とつながる教育活動の展開をビジョンに掲げ、各学科における地域連携活動はもちろ

ん、全ての学生が参加すること
できる正課外活動においても、そ
のプログラムの充実を推進してお
ります。学生たちは、こういった
地域連携活動を利用して、神奈川
県内の近隣地域のみならず全国各
地へ出向き、現地が抱える課題に
向き合いながら、地域との協働活
動を行っています。

活動の内容は、東日本大震災の
復興を支援する「ボランティア活
動」、過疎地域における観光客誘
導に向けた「町おこし」、地域の
企業様との「商品開発」等、多岐
に亘りますが、各活動に共通して
いることは、参加学生が「地域貢
献」に対する意識を持つと共に、
出向いた地域で、多様な働く大人
と出会うことです。出向く先が全
国各地になりますと生活環境も違
いますし、出会う方の年代も様々
です。こういった働く大人との交
流を通して、学生には就職のみな
らず、その後の長い将来について
考えるきっかけにでもらいたい、
そういった思いを持って活動に取
り組んでもらっています。

このような地域連携における学
生の主体的な活動を就職活動や
キャリア形成支援に関連付けた取
り組みに発展させるため、今年三
月、新たに「夢をかなえるセン
ター」を開設しました。本学では
キャリア形成を「社会との関わり
の中で積み重ねる全ての経験を通
して、社会と自分自身をしっかりと
見つめ、自らの進む道を見つけ

就職状況報告

後援会の皆様におきましては、日頃
より就職支援業務に対して、多大なる
ご援助を頂き感謝を申し上げます。
本学学生の就職状況および就職支援
課の取り組みにつきましてご報告させ
て頂きます。

＜二〇一七年度就職決定状況＞

二〇一七年度就職決定率は大学が九
八・六％、短期大学部が一〇〇％（三
年連続）となりました。私立大学の全
国平均が九七・七％（文部科学省「厚
生労働省調査」、短期大学の全国平
均が九七％（同調査）ですから、どち
らも全国平均を上回る結果となりまし
た。また、大学はすべての学科で九〇
％以上となり、売手市場ということも
あって高い水準の就職率となりました。

就職先も大和ハウス工業（総合職）
や羽田空港サービス（総合職）、日本
食研ホールディングス（総合職）、三
井住友銀行（事務職）、横浜信用金庫
（事務職）、日本航空（CA）、コー
ナン商事（販売職）、ファンケル（販
売職）、オンワード樫山（販売職）、
LEOC（栄養士・管理栄養士）、エー
ムサーピス（栄養士・管理栄養士）、
小学館集英社プロダクション（栄養
士）、明治（研究職）、ベネッセスタ
イルケア（介護職）、各教育委員会
（小学校教諭など）など、様々な業種
の様々な職種で採用して頂きました。

＜二〇一八年度就職活動状況＞

就職スケジュールは今年度も昨年度
同様で、採用情報公開が三月解禁、選
考開始時期が六月となっております。
内定を早々に獲得する学生が多い一方
で、マッチングがうまくいかずに苦労
している学生もまた少なくないのが現

出し、人生を前向きに生きていく
こと」であると考えています。本
学で培った全ての経験が、就職活
動時だけでなく卒業後何年経過し
ても、前を向いて生きていくため
の拠り所になるよう、今後も多くの
「学びの場」を提供してまいり
ますので、学生の皆さんの積極的
なご参加をお待ちしております。

学内で収穫した梅の実で
作られた梅酒「翠想(すいそう)」
小田急百貨店町田店で
期間数量限定で販売されます

地元久保田酒造株式会社様の
「相模灘純米吟醸」と出会って、
こだわりの梅酒が完成しました。

場所 小田急百貨店町田店 地下
一階 和・洋酒売場

販売開始 二〇一八年九月十二日
(水)から

月・土曜日 十時～二時三〇分
(日曜・祝日・二〇時)

※なくなり次第終了(二〇〇本限定)

ルミネ大船店「うまいもん大学」
へ出店します

ルミネ大船店で、鎌倉・湘南の地
産地消をテーマに、銀座甘楽と本学
学生が考えた限定商品を販売します。

場所 大船ルミネウイング 三階
正面入口前

日時 二〇一八年十月二〇日(土)
十時～十八時

二〇一八年十月二一日(日)
十時～十七時

二〇一八年度秋学期学年暦(大学)

秋学期授業開始	九月 七日(木)
メデア情報科セミナー説明会(二年次生)	九月 七日(木)
秋学期履修科目追加訂正期間	十月 十四日(木)～十五日(金)
社会マネジメント学科卒業研究題目届出日	十月 十五日(金)
祝日授業	十月 十八日(月)
祝日休業の日	十月 十九日(火)
創立記念日	十月 十八日(月)
日本語日本文学科卒業研究卒業制作中間発表	十月 十七日(日)
管理栄養学科給食の運営実習報告会	十月 十七日(日)
学芸学部日本漢学能力検定試験	十月 十七日(日)
相生祭(二日準備五日片付け)	十月 十七日(日)
十月三日(土)	祝日文化の巨(四日)
社会マネジメント学科卒業研究発表会	十月 十七日(日)
社会マネジメント学科セミナー説明会(二年次生)	十月 十七日(日)
社会マネジメント学科卒業研究発表会	十月 十七日(日)
管理栄養学科卒業研究発表会	十月 十七日(日)
祝日授業	十月 三日(金)
祝日(勤労感謝の日)	十月 十四日(土)
健康栄養学科卒業研究発表会	十月 十四日(土)
社会マネジメント学科セミナー希望調査提出期限(二年次生)	十月 十三日(金)
社会マネジメント学科地域で学ぶ社会のくみ報告会(二年次生)	十月 十日(火)
英語文化コミュニケーション学科卒業研究提出日	十月 十日(火)
メデア情報科卒業研究発表会	十月 八日(日)
健康栄養学科協定栄養士実力試験(四年次生)	十月 八日(日)
日本語日本文学科卒業研究卒業制作提出日	十月 九日(日)
英語文化コミュニケーション学科卒業研究発表会	十月 十五日(土)
英語文化コミュニケーション学科TOEIC(二三年次生)	十月 十五日(土)
栄養教諭教育実習報告会	十月 十五日(土)
健康栄養学科フードロスリサイクル資格認定試験(予定)	十月 十五日(土)
社会マネジメント学科卒業研究提出日	十月 十六日(日)
人間心理学卒業研究提出日	十月 十六日(日)
管理栄養学科卒業研究提出日	十月 二十日(木)
祝日授業(秋学期前半授業終了)	十月 二十日(木)
祝日休業(秋学期後半授業開始)	十月 二十五日(火)
冬季休業	十一月 四日(月) 振替休日(天童誕生日)
冬季休業	十一月 五日(火)～六日(水)
秋学期後半授業開始	十一月 七日(木)

二〇一八年度秋学期学年暦(短期大学部)

秋学期授業開始	九月 七日(木)
秋学期履修科目追加訂正期間	十月 十四日(木)～十五日(金)
祝日授業	十月 三日(金)
祝日(勤労感謝の日)	十月 十四日(土)
健康栄養学科卒業研究提出日	十月 十五日(日)
創立記念日	十月 十八日(月)
相生祭(二日準備五日片付け)	十月 十八日(月)
十月三日(土)	祝日文化の巨(四日)
祝日授業	十月 三日(金)
祝日(勤労感謝の日)	十月 十四日(土)
協定栄養士実力認定試験(二年次生)	十月 九日(日)
祝日授業(秋学期前半授業終了)	十月 十四日(土)
祝日休業(秋学期後半授業開始)	十月 十九日(火)
冬季休業	十一月 四日(月) 振替休日(天童誕生日)
冬季休業	十一月 五日(火)～六日(水)
秋学期後半授業開始	十一月 七日(木)
二れから栄養士になる人の集い(二年次生)	十一月 十日(日)
授業なし日	十一月 十日(日)
大学入試センター試験	一月 十九日(火)～二十日(水)
秋学期最終授業および秋学期末定期試験期間	一月 十九日(火)～二十日(水)
卒業式	二月 十九日(火)
秋学期成績発表(在学生オリエンテーション)	三月 十八日(月)～十九日(火)

☎電話番号案内☎

学生生活に直結する主要部署の電話番号は次のとおりです。何かありましたら、お気軽にお問い合わせください。

大学事務局

〇四二・一八一・三・五〇六九
授業、試験、成績、休学、復学、退学等、学業全般に亘る事柄を担当しています。

学生相談室

〇四二・一七四六・六六七二
学生生活の中で出会う様々な事柄についての相談を担当しています。

入試課

〇四二・一七四九・五五三三
フリーダイヤル 〇一・八六・三三三二
入学試験や編入学試験等に関する事柄を担当しています。

保健センター

〇四二・一七四七・九〇七二
心身の健康に関する相談を担当しています。

保健センター

〇四二・一七四二・一七三四
就職や進学に関する相談を担当しています。

生涯学習支援課

〇四二・七四七・五九六三
授業外の資格取得支援や生涯学習を担っています。

夢をかなえるセンター
連携教育推進課
〇四二・一八一・三・五〇八〇
地域連携活動、国際交流(留学・研修)等、正課外における学生の主体的な学びを担当しています。

就職支援状況
就職支援課では、低学年へのキャリア
形成支援と、大学三～四年生および
短期大学部一～二年生への就職支援を
中心に学生への支援を行っています。
キャリア形成支援としては、昨
年度から全学科の一年生を対象に
P R O Gテストを実施しております。
このテストは、学生のジェネリクス
キル(リテラシーとコンピテンシー)
を測定するもので、結果をもとに学生
自身に自分の現状(強みと弱み)を客
観的に見つけてもらい、四年間のまた
は二年間の学生生活の中で、しっかりと
成長して貰うことを目的としており
ます。また、夏休みには企業見学会を
実施し、低学年からの就業意識の向上
に役立てております。その他、ディズ

ニアカデミーや食卓作法の講座、ビ
ジネス実務マナー技能検定試験など、
キャリア形成に役立つ様々な企画を実
施しています。

就職支援としましては、主に次のよ
うな取り組みを行っています。

・就職支援イベント・就職準備講座
大学三年生・短期大学部一年生を対
象に一年間をとおして実施しており、
職業適性検査やS P I対策、履歴
書・エントリーシートの書き方、業
界・企業・職種研究、面接やグルー
プディスカッションの方法など、就
職活動を行う上で最低限必要なこと
を学ぶことができます。

・面談・カウンセリング
学科担当者による面談は大学三年
生・短期大学部一年生の秋と大学四
年生・短期大学部二年生の春に実施

・職場体験型のインターンシップ
大学三年生・短期大学部一年生を対
象に、二〇社ほどの企業で夏休みを
中心に実施しています。

・OGカフェ
七〇社以上の企業より卒業生にお越
し頂き、入社を決めた理由や仕事の
内容などを聞いて、自分の視野を広
げたり今から準備すべきことを考え
るための企画です。

・就職お祝い
学外のセミナーハウスにて一泊二日

最後の進路を叶えることができます。
私たち職員一同、精一杯サポートさせ
て頂きますので、ご理解のほど
よろしくお願い致します。
(就職支援課)

2017 (平成29) 年度進路決定状況

(1)進路決定者数												
	日文	英文	教育	メデア	デザイン	社会	心理	健康	管理	大学計	栄養	短大計
卒業生(A)	99	64	112	62	50	75	93	87	106	748	125	125
未登録・未報告他	1	1	0	1	0	2	4	0	0	9	1	1
大学院	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	0	0
編入	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	18	18
専門学校	1	0	1	0	0	2	0	0	0	4	1	1
留学	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
進学準備	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0
家事従事	11	3	9	14	8	4	10	1	1	61	7	7
計	13	6	11	16	8	8	16	2	3	83	27	27
就職未決定者	4	0	0	1	0	1	2	0	1	9	0	0
就職決定者(B)	82	58	101	45	42	66	75	85	102	656	98	98
計(C)	86	58	101	46	42	67	77	85	103	665	98	98
希望率(C/A)	86.9%	90.6%	90.2%	74.2%	84.0%	89.3%	82.8%	97.7%	97.2%	88.9%	78.4%	78.4%
決定率(B/C)	95.3%	100.0%	100.0%	97.8%	100.0%	98.5%	97.4%	100.0%	99.0%	98.6%	100.0%	100.0%

(2)決定者の職種別内訳												
	日文	英文	教育	メデア	デザイン	社会	心理	健康	管理	大学計	栄養	短大計
総合職	16	12	3	6	10	17	13	11	18	106	3	3
事務職	17	11	1	8	6	18	22	4	4	91	3	3
司書・図書館関連	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
営業職	2	5	3	6	2	12	3	3	2	38	0	0
販売職	12	5	0	4	9	10	16	9	2	67	6	6
栄養士	0	0	0	0	0	0	0	43	12	55	71	71
管理栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	60	60	0	0
食品技術者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
研究開発(栄養士免許取得見込者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
調理員	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2
保育士	0	0	57	0	0	0	0	0	0	57	0	0
保育教諭	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0
介護職・生活支援員	2	0	0	3	0	0	8	1	1	15	0	0
教諭(幼稚園)	0	0	14	0	0	0	0	0	0	14	0	0
教諭(小学校)	0	0	15	0	0	0	0	0	0	15	0	0
教諭(中学)	2	1	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0
教諭(高校)	3	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0
教諭(その他学習塾など)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0
設計職	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
製造職	1	0	0	0	1	0	1	1	1	5	1	1
サービス職	13	17	3	5	5	6	6	7	1	63	9	9
CA	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0
インストラクター	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
エステティシャン	0	0	0	0	1	0	2	1	0	4	1	1
デザイナー	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
SE	10	4	0	10	3	2	3	0	0	32	0	0
webデザイナー	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0
映像撮影者・AD・俳優	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
編集・翻訳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
その他の専門職	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0
その他	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3	1	1
合計	82	58	101	45	42	66	75	85	102	656	98	98

2019年度 相模女子大学・相模女子大学短期大学部入学試験日程

大 学 院 大 学	栄養科学研究科（博士前期課程・博士後期課程）	学 芸 学 部	：日本語日本文学科・英語文化コミュニケーション学科・子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科
	人間社会学部	：社会マネジメント学科・人間心理学科	栄 養 科 学 部
短期大学部	食物栄養学科		

試験制度	日程	願書受付期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
公募制推薦入試	A日程*1	郵送10月9日(火)～11月3日(土・祝)消印有効 窓口11月5日(月)まで	11月10日(土)	11月16日(金)	11月22日(木)
	B日程	郵送11月12日(月)～12月3日(月)消印有効 窓口12月5日(水)まで	12月8日(土)	12月14日(金)	12月21日(金)
一般入試	A日程*2	郵送1月8日(火)～1月21日(月)消印有効 窓口1月23日(水)まで	1月26日(土)	2月1日(金)	2月8日(金)
	B日程	郵送1月8日(火)～1月28日(月)消印有効 窓口1月30日(水)まで	2月4日(月)	2月9日(土)	2月15日(金)
	C日程	郵送1月21日(月)～2月13日(水)消印有効 窓口2月15日(金)まで	2月20日(水)	2月23日(土)	3月1日(金)
	D日程	郵送2月6日(水)～3月2日(土)消印有効 窓口3月4日(月)まで	3月7日(木)	3月10日(日)	3月15日(金)
大学入試センター 試験利用入試	A日程	郵送1月8日(火)～1月18日(金)消印有効		2月9日(土)	2月15日(金)
	B日程	郵送1月8日(火)～2月6日(水)消印有効 窓口2月8日(金)まで		2月16日(土)	2月22日(金)
	C日程C1方式 C日程C2方式	郵送2月6日(水)～3月2日(土)消印有効 窓口3月4日(月)まで		3月10日(日)	3月15日(金) 3月22日(金)
同窓生特別推薦入試 (本学キャンパス)	A日程*1	郵送10月9日(火)～11月3日(土・祝)消印有効 窓口11月5日(月)まで	11月11日(日)	11月16日(金)	11月22日(木)
	B日程	郵送2月6日(水)～3月2日(土)消印有効 窓口3月4日(月)まで	3月8日(金)	3月10日(日)	3月15日(金)

*学芸学部子ども教育学科では、同窓生特別推薦入試B日程を実施しません。 *栄養科学部では、公募制推薦入試B日程、同窓生特別推薦入試B日程、一般入試D日程を実施しません。
*短期大学部では、同窓生特別推薦入試B日程を実施しません。 *大学院入試およびAO入試についてはホームページをご参照ください。
※1 公募制推薦入試A日程と同窓生特別推薦入試A日程は、2018年11月10日(土)に仙台市、新潟市、長野市、静岡市、那覇市の5都市の地区会場でも実施します。
(詳細については、下記までお問い合わせください。)
※2 一般入試A日程は2019年1月26日(土)に地区会場(甲府市のみ)でも実施します。

【同窓生特別推薦入試について】

- 次の①から⑥の条件を満たし、責任をもって推薦できる⑦、⑧のいずれかの者。
- ①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者または2019年3月卒業見込みの者。ただし、調査書の提出が可能な者に限る。
 - ②本学を第一志望とし、合格したら必ず入学する者(専願制)。
 - ③調査書の全体の評定平均値が、下表の条件を満たしている者。
 - ④[栄養科学部健康栄養学科]上記に加え、高等学校もしくは中等教育学校時代に「生物基礎」および「化学基礎」を履修していること。
 - ⑤[栄養科学部管理栄養学科]上記に加え、高等学校もしくは中等教育学校時代に「生物基礎」および「化学基礎」を履修していること。
付帯事項:「生物」および「化学」を履修していることが望ましい。
 - ⑥[短期大学部食物栄養学科]上記に加え、高等学校もしくは中等教育学校時代に「生物基礎」および「化学基礎」を履修していること。
 - ⑦本学卒業生または在学生の4親等以内にあたる者。(4親等以内とは子供、姉妹、孫、姪、従姉妹などが含まれます)
 - ⑧本学卒業生が現在高等学校もしくは中等教育学校の教員(専任・臨時)または講師(専任、非常勤。ただし、非常勤講師の推薦の場合は、受験生の担任教員もしくは進路指導担当教員の推薦も併せて必要となります)として教育した者。
※「化学基礎」は、農業科・食品科学科・工業科等の専門学科で履修する「食品化学」、「工業化学」に置き換えることができます。

【編入学試験について】実施学部:学芸学部・人間社会学部(栄養科学部の編入学試験[7月試験]は実施しました)

願書受付期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
郵送10月9日(火)～11月3日(土・祝)消印有効 窓口11月5日(月)まで	11月10日(土)	11月16日(金)	11月22日(木)
郵送1月15日(火)～2月4日(月)消印有効 窓口2月6日(水)まで	2月13日(水)	2月16日(土)	2月22日(金)
郵送2月4日(月)～3月2日(土)消印有効 窓口3月4日(月)まで	3月8日(金)	3月10日(日)	3月15日(金)

【入試説明会】

[日程] 10月13日(土)、11月3日(土・祝)・17日(土)
[時間] 14:00～16:00(11月3日のみ10:00～15:00)
[内容] 入試制度説明、キャンパス見学、個別入試相談など(11月3日は個別入試相談のみ)

◆オープンキャンパス◆
9月23日(日) 10:00～15:00
12月1日(土) 12:00～15:00
学科説明・各種個別相談・キャンパスツアーなど

【お問合せ先】大学事務部入試課 TEL 0120-816-332(通話料無料・携帯からは不可)／042-749-5533

〈お問合せ・願書窓口受付時間〉平日9:00～17:00 土曜日9:00～12:30

相模女子大学 後援会会則

第一章 総 則

- 第一条 本会は相模女子大学、相模女子大学短期大学部後援会という。
- 第二条 本会の事務所を神奈川県相模原市南区文京二丁目相模女子大学内におく。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図ると共に大学の教育研究活動、学生の福利厚生、課外活動等を後援し、もつて大学の発展を期することを目的とする。

第二章 事業

- 第四条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
 - (1) 大学の教育研究活動の後援
 - (2) 学生の福利厚生に関する援助
 - (3) 学生の課外活動に対する援助
 - (4) 講演会、研究会、教育懇談会等の開催
 - (5) 刊行物の発行、配布
 - (6) その他、本会の目的達成に必要な事項
- 第五条 本会は前条の事業運営のために次の部をおく。
 - (1) 総務部／総会・役員会等の招集、会議の記録、企画・調査・渉外等
 - (2) 事業部／福利厚生、課外活動、講演会、研究会、教育懇談会、会報の作成等
 - (3) 会計部／予算・決算、会費の徴収等

第三章 会員

- 第六条 本会の会員は次のとおりとする。
 - (1) 正会員 学生の父母または保証人

- (2) 賛助会員 卒業生の父母または保証人、本会の役員会の推薦する者。

第四章 役員

- 第七条 本会に次の役員をおく。
 - (1) 会 長 一名
 - (2) 副会長 二名以内
 - (3) 常任理事 二名以内
 - (4) 理 事 八名以上十名以内
 - (5) 監 事 一名
- 第八条 役員は次のとおりとする。
 - (1) 会長は本会を代表し、会務を統括する。
 - (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - (3) 常任理事は会務並びに事業の執行にあたる。また、会長の諮問に応ずる。
 - (4) 理事は本会の事業計画・予算・事業報告・決算その他重要事項を審議する。
 - (5) 監事は事業並びに会計の監査にあたる。

第五章 会議

- 第十二条 会議は総会、常任理事会、理事会とし、会長がこれを招集する。
 - 2 前項の会議の議長は会長とする。
- 第十三条 会議の議決は出席者の過半数による。可否同数の時は議長がこれを決定する。
- 第十四条 定期総会は毎年一回開催し、次の事項を審議する。ただし、会長が必要と認めるときは、臨時総会を開くことができる。
 - (1) 事業計画・予算の議決および事業報告・決算の承認
 - (2) 会務の報告
 - (3) 役員を選任
 - (4) 事業の決定
 - (5) その他重要事項
- 第十五条 常任理事は正会員より会長に次いで選任する。
 - (1) 会長及び副会長は総会において正会員の互選により選出する。
 - (2) 常任理事は理事の中から会長が選任する。
 - (3) 理事及び監事は正会員より会長が選任する。
- 第十六条 役員は次の方法により選任する。
 - (1) 会長及び副会長は総会において正会員の互選により選出する。
 - (2) 常任理事は理事の中から会長が選任する。
 - (3) 理事及び監事は正会員より会長が選任する。
- 第十七条 役員は年とし再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合はその後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

- 者および常任理事経験者を顧問に委嘱することができる。
- 顧問は本会の運営について会長の諮問に応じ、総会および役員会に出席して意見を述べることができる。

- 2 緊急の際は、理事会をもつて総会にかえることができる。ただし、この場合、総会の事後承認を得なければならない。

- 第十五条 常任理事は会長・副会長・常任理事で構成し、総会および理事会で決定された会務を処理する。
- 第十六条 理事会は会長・副会長・常任理事・理事・監事で構成し、事業計画・予算・事業報告・決算、その他重要事項を審議する。
- 2 理事会は会長が必要と認めたときに、これを開催する。ただし、構成員の三分の二以上の出席をもって成立する。

第六章 会計

- 第十七条 本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもつてこれに充てる。
- 第十八条 正会員は、年度毎に会費一〇、〇〇〇円を納入する。なお、春学期休業し、秋学期に復学した場合は、秋学期の学費とともに納入する。
- 2 一旦納入された会費は、いかなる場合も返還しない。
- 3 通年で休業した場合、当年度の会費は免除される。
- 第十九条 賛助会員は正会員の会費(年額)を二口として、一口以上を随時納入するものとする。
- 2 本会の会計年度は、毎年四月二日に始まり翌年三月三日に終わる。

附 則

- 一、この会則の改廃は、総会の議を経なければならぬ。
- 二、この会則の施行について必要な細則は別に定める。
- 三、この会則は一九九五年四月一日より施行する。
- 四、一九九七年七月五日部改正、一九九七年四月一日より施行する。
- 五、二〇〇三年六月七日部改正、二〇〇三年四月一日より施行する。
- 六、二〇〇六年九月九日部改正、二〇〇六年四月一日より施行する。
- 七、二〇〇八年六月七日部改正、二〇〇八年四月一日より施行する。
- 八、二〇一〇年六月五日部改正、二〇一〇年四月一日から施行する。
- 九、二〇一八年六月九日部改正、二〇一八年四月一日から施行する。

後援会内規

- 一、甲慰金 学生または父母が死亡した場合の甲意は、次による。
 - (1) 学生 甲慰金四〇、〇〇〇円および花輪または生花
 - (2) 父母 甲慰金二〇、〇〇〇円および花輪または生花
- 二、旅費
 - (1) 役員会に出席した場合は、別記様式の旅費計算書の提出により旅費を支給する。
 - (2) 交通費(五、〇〇〇円を上限とする)。
 - (2) 会長が特に必要と認めた場合の旅費については、前項の規定を準用する。

附 則

- 一、この内規は一九九五年四月一日より施行する。
- 二、二〇一六年六月十一日部改正、二〇一六年六月十一日から施行する。

寄稿のお願い

会報は年二回発行の予定です。会員の皆様からの寄稿をお待ちしております。随筆、短歌、トピックス等、六〇〇字程度でお願いいたします。

後援会会報四七号

発行日 二〇一八年九月二〇日
発行所 相模女子大学 後援会
相模女子大学短期大学部
編集責任者 後援会事業部
事務局(大学事務部学生支援課)
〒252-10383
住所 相模原市南区文京二丁目
電話 042-749-5533
FAX 042-749-2300